

3. アンケート結果を集計シートのそれぞれの項目のシートに入力します

トラブルについてのアンケートの実施後、集計シートの中の「トラブルの頻度」「声掛けの意識」「怒りへの対処法」の項目のシートを選択して、児童生徒のアンケート結果を入力します。

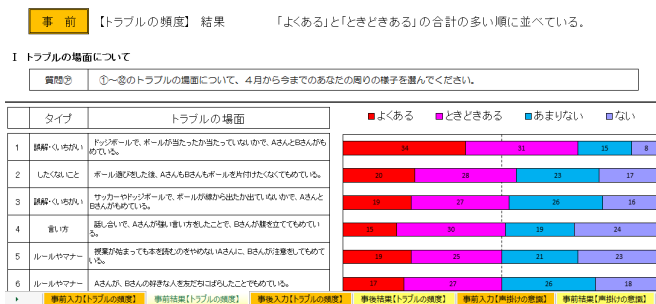
年 組		性別	番号																
月 日		実 施	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	したいこと	1	新しい本を自分が手に取りたいと言って、AさんとBさんがもめている。	1	2	2	3	2	2	1	1	1	2	3	1	1			
1	したいこと	2	グループ活動のとき、自分がリーダーをしたいと言って、AさんとBさんがもめている。	1	2	4	3	3	2										
1	したいこと	3	掃除中、AさんがトイレトイレットペーパーをBさんより先に取りに行ったことでもめている。	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	1	1				
1	したいこと	4	特別教室の机を自分が取りに行きたいと言って、AさんとBさんがもめている。	1	1	4	4	2	3	2	2	1	2	1	3	3			
1	したいこと	5	列に並ぶとき、自分が先だと言って、AさんとBさんがもめている。	2	1	4	2	3	2	1	3	1	2	4	2	1			
2	したくないこと	6	ボール遊びをした後、AさんもBさんもボールを片付けたくなくもめている。	1	3	4	2	1	2	4	3	2	4	4	1	1			
2	したくないこと	7	掃除のバケツをAさんもBさんも片付けたくなくもめている。	2	1	4	3	2	2	3	2	2	3	4	1	1			

グループ活動のとき、自分がリーダーをしたいと言って、AさんとBさんがもめている。	1	2	4
掃除中、AさんがトイレトイレットペーパーをBさんより先に取りに行ったことでもめている。	1	1	2

児童生徒のアンケート結果を数字で入力します。

シートを選択します。

4. 帯グラフを基に、トラブルに対する学級の実態を把握します



児童生徒のアンケート結果を入力すると、学級内のトラブルの頻度や声掛けの意識、怒りへの対処法の様子が帯グラフで示されます。

5. 授業実践並びに今後の学校生活に生かします

事前のアンケート結果を活動プログラムの授業の導入段階に用いて、児童生徒のめあてに対する意識を高めます。

(活用例)

トラブルの頻度の結果

小学校	1 時目	「怒りについて考えよう」
	3 時目	「トラブルにならないような聞き方を練習しよう」
	6 時目	「友達のトラブルを解決する方法を練習しよう」

中学校	1 時目	「怒りについて考えよう」
	5 時目	「友達のトラブルを解決する方法を練習しよう」
高等学校	1 時目	「怒りについて学ぼう」

声掛けの意識の結果

小学校	4 時目	「トラブルにならないような話し方を練習しよう」
中学校	3 時目	「トラブルにならないような話し方を練習しよう」
高等学校	2 時目	「トラブルにならないような話し方を学ぼう」

怒りへの対処法の結果

小学校	2 時目	「怒りと上手に付き合おう」
中学校	2 時目	「怒りと上手に付き合おう」
高等学校	1 時目	「怒りについて学ぼう」

また、結果を比較提示することで、全体で学級の実態の変容を把握し、今後の学校生活の目標を立てることに役立ちます。

トラブルについてのアンケートの実施と集計を行うことで学級の実態を的確に把握することができ、本活動プログラムを効果的に活用できると考えます。